

## 平成29年度道徳教育実践研究（研究指定校）事業実績報告書

### 1 研究指定校の概要

指定校名	美馬市立江原中学校
校長氏名	三宅 淑子
所在地	美馬市脇町字曾江名359-41
電話番号	0883-52-1140
URL	<a href="http://e-school.e-tokushima.or.jp/mima/jh/ehara/html/htdocs/">http://e-school.e-tokushima.or.jp/mima/jh/ehara/html/htdocs/</a>

### 2 研究課題

#### (1) 研究主題

互いに認め合い、高め合う生徒の育成  
～豊かな体験活動や、人・社会との関わりを通して～

#### (2) 設定の理由

本校の生徒は明るく素直であり、学習・部活動・学校行事等に互いに協力して真面目に取り組んでいる。保護者は教育に熱心に関心も高く、学校に対して協力的である。また、地域の方々も学校の教育活動に理解を示し、日頃から支援していただいている。本校では、めざす学校像を「あたたかく、清々しい学校～認め合い、高め合う～」とし、全教職員と全生徒が合い言葉にして多様な教育活動に取り組んでいる。多くの生徒が主体的・意欲的に活動しているが、自分を表現することが苦手な友人関係等に悩みを抱える生徒もいる。

そこで、豊かな体験活動や人・社会とのつながりの中で、各自の役割や責任を果たすことにより、一人一人の生徒が自己有用感や自己効力感を高めるとともに、道徳の授業を通して、自分の生き方を考え、道徳的価値を内面的に自覚し、よりよく生きようとする道徳性を養いたい。そして、互いに思いやり自他の良さを認め合うあたたかさや、互いに切磋琢磨し共に高め合おうとする清々しさを身に付けさせたいと考え、本主題を設定した。

### 3 研究の概要及び特色

#### (概要)

平成31年度からの教科化の全面実施に向けて、次の観点から実践研究を進めた。

- (1) 道徳の教科化に向けた「量的確保」のための取組
- (2) 道徳の教科化に向けた「質的向上」のための取組
- (3) 体験活動や学校行事等の更なる充実
- (4) 道徳に関するアンケートの実施

#### (特色)

##### (1) キャリア教育等と連動した道徳教育の実践

キャリア教育、人権教育、総合的な学習の時間、学校行事等との関連を踏まえた各学年の年間計画一覧表を基に道徳教育の全体計画（別葉を含む）や道徳の年間指導計画を見直した。

##### (2) 指導力向上に資する校内研修の実施

学級はもとより学年や学校全体でも一斉に道徳教育が進められるよう、教員間の共通理解や対話を大切にし、計画的に研究授業や相互授業参観を行った。まず、教師が互いに認め合い、高め合いながらそれぞれの指導力を向上させるよう、校内研修の在り方を工夫改善した。

## 4 研究の内容と成果

### (1) 道徳の教科化に向けた「量的確保」のための取組

#### ① キャリア教育等との関連を踏まえた道徳教育の全体計画・年間指導計画等の見直し

4月上旬に、キャリア教育、人権教育、総合的な学習の時間、学校行事等との関連を踏まえて各学年の年間計画一覧表を作成し、それを基に道徳教育の全体計画（別葉を含む）や道徳の年間指導計画等の見直しを行った。

その際、人権教育にかかわって、全教職員が次のとおり共通理解して進めた。

- ・「知る・学ぶ」と捉えられる内容は「総合的な学習の時間」に行く。
- ・自分を振り返りよりよく生きるために「考える」と捉えられる内容は道徳の時間に行く。
- ・学級づくりや仲間づくりなど、「行動する」と捉えられる内容は学級活動の時間に行く。

#### ② 推進委員会の設置

校長、副校長、教頭、教務、道徳教育推進教師、各学年の道徳担当職員で推進委員会を構成し、定期的に各学年の取組状況等について協議し、全教職員間の共通理解を図った。それぞれの進捗状況や課題等についても検証・協議し、改善を図った。

#### ③ 学びの蓄積の見える化

各学級に、係活動として道徳係をおいた。また、授業時に「道徳⑬」のように本時が何時間目になるかを板書するとともに、道徳の授業で学習した内容項目や主な生徒の意見等をまとめて教室背面や廊下等に掲示することによって、これまでの学びの蓄積の見える化を図った。生徒や教師が他学年の学びを共有することにもつながり、大変有効であった。



1年廊下の掲示



2年教室内掲示



3年教室内掲示

### (2) 道徳の教科化に向けた「質的向上」のための取組

#### ① 授業力向上を目指した取組

(ア) 考え、議論する道徳の実践に向けて校内研修を行うとともに、全ての学級においてそれぞれ研究授業を2回・公開授業を1回ずつ実施するなど、教員の授業力向上を図った。



1年A組研究授業



2年B組研究授業



3年A組研究授業

(イ) 道徳（人権）学習指導案の様式について検討し、本校独自の様式を作成した。

- ・指導計画では、主題に関わる様々な教育活動をフローチャートで示す。
- ・本時の指導において、「ねらいとする道徳的価値」を明記する。
- ・展開では、「主な発問と予想される生徒の反応」を加える。など

(ウ) 6月、11月、2月に各1週間の「学び合いウィーク」を設定し、全教職員が空き時間を活用して自由に授業を参観し、良かったことや改善点等について伝え合った。全教科に共通する指導技術・方法について気付きがあり、非常に好評であった。

〔教員の声から〕

- ・他人のよさを見つけるということの「よさ」を実感した。
- ・他人のやり方から自分のスタイルも逆にわかるなど、気づきが多い。
- ・自分のよさを再確認し、自尊感情が高まった。同僚への感謝の思いをもった。

(エ) 12月23日(土)に、教員研修としてフィールドワークを実施した。午前中は姫路市御着で柏葉嘉徳さんからお話を聞くとともに皮革工場が立ち並ぶ町を案内していただいた。皮革工場を見学し、地域の歴史と文化について学んだ。午後からは三ノ宮にある賀川豊彦記念館を見学し、新川地区や専称寺などを訪ね、案内してくれた担当者から説明を聞きながら、本県の「郷土の偉人」の一人である賀川豊彦氏の活動について深く学んだ。



② キャリア教育における「マイ 夢&キャリアシート」の活用

将来(25歳)の自分や卒業時の自分を具体的にイメージし、それに向けて今何をするべきなのか、毎学期始めに目標を設定し、学期終わりごとに振り返りの機会をもつことで、生徒の自主的・自律的な取組に対する意識付けを図っている。

また、一人一人の生徒が個人用ドキュメントファイルを持ち、「マイ 夢&キャリアシート」と様々な学びの記録や意見・感想等を保管している。卒業時には中学校3年間の成長の軌跡として、各生徒が持ち帰ることにしている。

(3) 体験活動や学校行事等の更なる充実

① ねらい・目的の明確化と共有

各種体験活動や学校行事等のねらいを生徒に明確に示し、教員・生徒全員が共有しベクトルを一本化することを大切にした。多くの生徒が一つ一つの活動や行事が相互に関連していることを理解し、道徳で話し合ったことや考えたことが実際の動きとつながっていることを実感するとともに、成就感や達成感を味わうことができた。また、一人一人の生徒が自分の役割や責任を果たす中で協力し、互いのよさを認め合うこともできた。各学校行事等の写真を1階廊下に掲示し、様々な場面での活躍の様子を振り返ることができるようにした。



対面式・生活科エンターション



体育祭



合唱コンクール



文化祭



人権意見発表会



1階廊下の掲示

### ② 地域の障がい者支援施設との交流活動を通した学び

2年生が校区内にある「障害者支援施設かしがおか」の利用者と交流を重ね、障がいのある人への理解を深めるとともに、障がいのあるなしにかかわらず、全ての人々が共生できる社会について考えた。初めは戸惑いがちだった生徒も文化祭の合同発表に向けて練習を重ねる中で次第に打ち解け、本番では心を合わせた素晴らしい発表を披露した。

その後の作業場での合同作業や節分での合同活動などでは自分から話しかけたり笑顔で接したりする姿があちこちで見られた。



互いに自己紹介



文化祭での合同発表



作業所での合同作業

#### [生徒の感想から]

- 学習を深めていく前は、障がいのある人を怖いと思い不安に感じていたが、文化祭に向けて練習を重ねていくにつれてとても楽しく過ごせるようになった。
- 交流学习をすることで今まで障がいのある人のことを「かわいそう」と思っていた自分の考えが間違っていたのだと知ることができた。
- 道徳や人権学習を通してもっと深く考え、自分自身の差別意識をなくしていきたいと思う。

### ③ 地域や社会とのつながりを通した学び

人権に関する講演など多様な話を聞く機会を設け、様々な講師から学ぶことにより道徳の授業等で考え、話し合っていることを更に深めることができた。また、地域のボランティアの方による読み聞かせ（月1回）や、能舞台での狂言の観劇などを実施するとともに、美馬市伝統工芸の和傘を活用したランプシェードを作成するなどして、地域のよさを知る機会も確保した。生徒からはこうした多様な経験ができることへの喜びや感謝の思いが伝えられた。



人権講演



能舞台での狂言



読み聞かせ



人権劇「千の舞い」



国際交流学習



美馬市伝統工芸の和傘を活用したランプシェード作り

④ 校外での各種体験活動を通した学び

毎年ゴミゼロの日には学校周辺の清掃活動を行っている。地域の方が声をかけてくれることも多く、生徒も励みに感じている。職場体験学習では各事業所・店舗の方から様々なことを教えていただき、自分たちが地元の子供として大切にされていることを実感する貴重な機会となっている。また、保育実習では、年長者として幼い子供たちに気遣いながら一緒に過ごし、自分たちもこのように多くの人に愛されている存在であることを実感した。



ゴミゼロ活動



職場体験学習



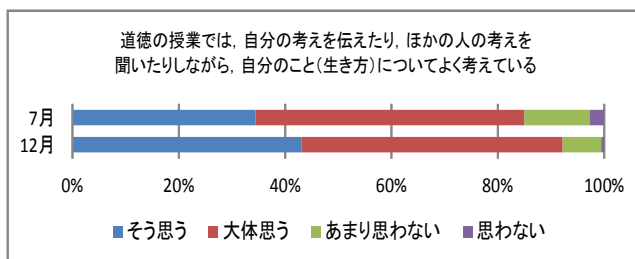
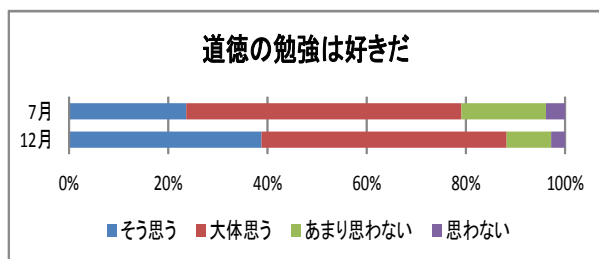
保育実習

(4) 道徳に関するアンケート結果から

7月上旬と12月上旬に、道徳に関するアンケートを実施し、結果について考察した。

全学級において道徳の時間等の「量的確保」が図られるとともに、教員の指導力向上を目指した取組による「質的向上」も実現されたため、生徒の道徳の学習に対する意識は大変主体的・意欲的なものになっていると判断できる。

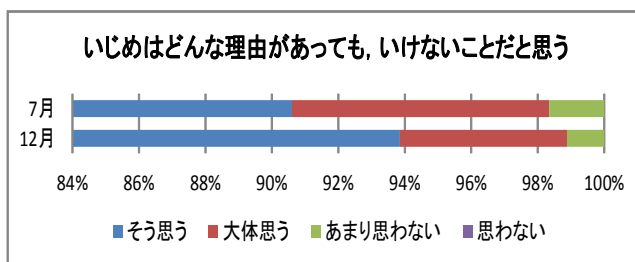
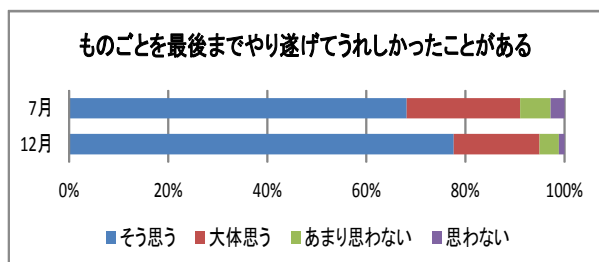
[考察1]

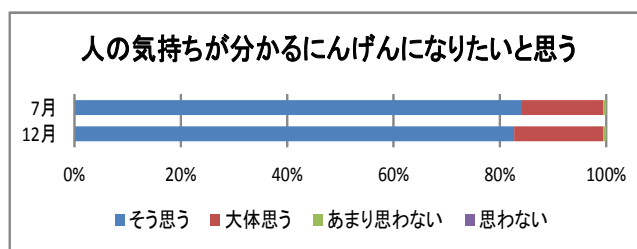
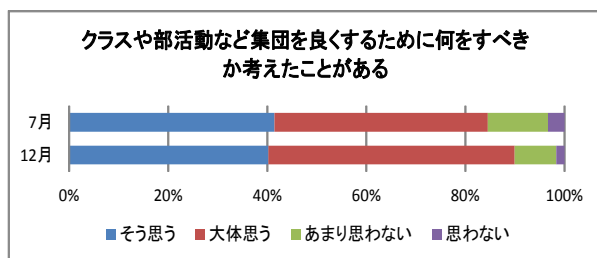


「道徳の勉強は好きだ」について、「そう思う」「大体思う」と肯定的に回答した生徒は、7月の時点で約8割いる状況だったが、12月には9割近くにと更に増加した。それぞれの教員が生徒と考え話し合うことを大切にする中で、生徒の心の変化や成長に大きな手応えを感じていたが、アンケート結果からもそれが明らかになった。

同様に、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」についても、肯定的な回答が9割以上へと増加している。今年度、全ての教職員が道徳の授業等で生徒と共に考え、話し合うことを大切にしてきた。そうした中、生徒の発表や感想等から生徒たちがその時々の内容項目について深く考えていることが伝わり、道徳の授業を進める上で大きな手応えを感じてはいたが、本結果からも、生徒たちが意欲的・主体的に道徳の授業に向き合っていることが分かり、とてもうれしく感じている。

[考察2]

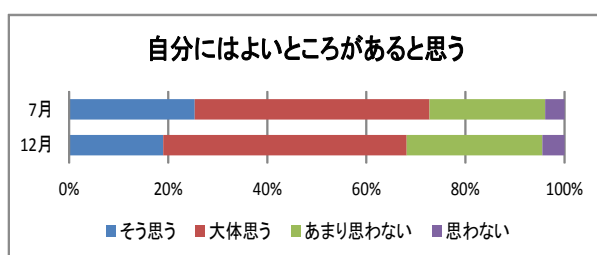




体験活動や学校行事等の充実を図り、道徳における気付きや学びと関連付ける中で、生徒が自らの役割・責任を果たし、成就感や達成感を味わうことができた。

また、教室の中での学びが生徒の日常生活に活かされ、様々な面において生徒が肯定的で前向きに捉えている状況がうかがえる。

### 〔考察3〕



「自分にはよいところがあると思う」について、肯定的な回答が減少していることから、達成感や成就感を味わい、自己有用感や自己効力感を高めることはできたものの、自分のよさに気付いていない生徒がまだまだ多くいるということが明らかになった。そのため、生徒が自分のよさを認め、実感し、少しずつでも自分のことを好きになれるよう、全教職員がこれまで以上に一人一人に対する声かけや働きかけを根気強く続けていく必要があると考えている。

## 5 今後の課題

本研究指定を受け、様々な取組を実施してきたことにより、「量的確保」「質的向上」の実現、体験活動や学校行事等の更なる充実など、大きな成果をあげることができた。その反面、アンケート結果からもいくつかの課題がみられる。今後は、本研究の成果や課題を踏まえ、改善を図りながら、次年度以降も全教職員の共通理解のもと、取組を継続していきたい。

また、道徳の教科化にあたり、評価についても検討しなければならないと考えている。全校レベルでの「振り返りシート」の導入・活用など、評価により生徒の道徳性を伸ばすとともに、評価活動を通して指導や授業の更なる改善につなげていけるよう努めたい。